

不祥事防止研修会実施報告

学 校 名	三次市立三次小学校
研 修 テーマ	「人間は誰でも過ちを犯し得る」という立場から、全ての教職員がその自覚を持ち、自らの弱さを克服するために必要な事項について脳科学や社会心理学など複数の分野の文献や有識者の意見等をもとにまとめ、教職員による不祥事の根絶に努める。
研 修 担 当 者	教務部
研 修 日 時	令和4年11月17日(木) 15:30~15:55
参 加 人 数	24名
実 施 形 態	協議
使用資料等	■「教職員による不祥事の根絶(増補版)平成28年8月」
研 修 の 概 要	(1) 自らも過ちを犯し得る存在である (2) わいせつな行為等に至る要因 (3) 自らの弱さを克服するために (4) わいせつな行為等を防止する職場環境づくり ※(事例検討) 人間の心の中にある性的欲求を背景とした事案
研修を終えての 気付き等	○高学年は、特に「さわってほしくない」「気持ち悪い」などと敏感に感じる児童が多いので、自分自身の言動や行動についても気をつけていきたいです。 ○事例の教職員も葛藤しながらも一度の気の緩みで最終的に自分をコントロールできない状態まで発展したので、早期にリスクを断ち切る、回避することが大切だと思った。児童・生徒とSNSでつながる等の行為は絶対にしてはいけない。どうしていけないのか改めて理解した。 ○教職員も児童・生徒と個人的につながることや携帯電話番号を交換すること等、絶対にあってはいけないことを理解しているが、ちょっとした気の緩みや感情がコントロールできなくなり正しい判断ができなくなるということがある。そのような危険性があることを理解して、動機や機会を減らすとともに、組織的に児童に対応できる職場づくりが必要だと思った。 ○二人で出かけたり、二人で相談に乗ったりすることを重ねた結果、不祥事につながったと思います。そうなる前に、相談できる職員関係でありたいと思います。